

令和2年10月

各 位

八戸市東京事務所長

八戸レポートの送付について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート令和2年10月号」をお送りいたしますので、ご高覧くださいますようお願いいたします。

アイスホッケーのアジアリーグは、新型コロナウイルスの影響で日本、韓国、ロシアから計8チームが参戦する2020～2021年シーズンの開催を見送ると発表しましたが、日本の5チームによるリーグ戦「ジャパンカップ2020」が10月10日から実施されています。

八戸市を活動拠点としている「東北フリーブレイズ」の開幕戦は10月17日となり、ホームのフラット八戸で王子イーグルスと対戦します。

みなさま、ぜひ地元スポーツチームの応援をよろしくお願いいたします。

◆東北フリーブレイズの詳細はこちらをご覧ください（チームホームページ）

<https://www.tohokufreeblades.com/>

◎皆様へのお願い

職業、役職、住所などに変更がある場合は、八戸市東京事務所までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

電話 (03) 3261-8973 / FAX (03) 3239-6723

E-mail: tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

八戸10月号 レポート

令和2年9月の八戸市内での出来事や
八戸市に関連する情報をお届けします。

【行政】

記事	概要
(1)	八戸市営バス、南部バス ICカード導入検討
(2)	親子で秋のスイーツづくり体験 ～「八戸いちご」身近に感じて～

【産業】

記事	概要
(3)	VISITはちのへ「リモートトリップ」開催 ～オンラインの旅で八戸の名所と食を体験～
(4)	認知度向上へ「南部の堅豆腐プロジェクト」展開
(5)	青銀新店舗「八戸支店兼三日町支店」オープン
(6)	八戸ワイナリー 新作ワイン4種発売
(7)	八戸線「リゾートうみねこ」惜別のラストラン
(8)	八戸市中心街「はちのへホコテン」コロナ禍 今年初開催

【地域】

記事	概要
(9)	産業教育意見・体験発表会東北大会 八戸水産高の室谷さんが最優秀賞
(10)	短歌界新人の登竜門「短歌研究新人賞」谷地村さん（八高3年）入賞あと一歩
(11)	日本グラフィックデザイナー協会表彰 西川さん（八戸出身）新人賞受賞
(12)	キリギリス・バス運行 ～バスの中で秋の風情満喫～
(13)	ウインズスコア（東京）吹奏楽部応援企画 根城中にオリジナル曲プレゼント
(14)	レア物「ピンクのキリギリス」八戸で園児が発見
(15)	陸奥湊駅前の活性化へ オリジナルメニューで「陸奥湊キッチン」開催
(16)	八戸水産高生が「マリンマイスター」に認定
(17)	南極観測船砕氷艦「しらせ」3年ぶり八戸寄港

【文化・スポーツ】

記事	概要
(18)	アイスホッケー全日本選手権 八戸市で12月開催へ
(19)	悪疫退散 願い込め 八戸駅に三社大祭の山車展示

【行政】

記事	概要
(1)	<p>八戸市営バス、南部バス ICカード導入検討</p> <p>八戸市営バスを運行する市交通部と、「南部バス」事業を運営する岩手県北自動車（盛岡市）が、路線バスへの交通系ICカード導入に向けた検討を進めている。新型コロナウイルスの感染予防を背景に、非接触型のキャッシュレス決済のニーズが高まっていることから、スムーズな運賃支払いで利便性向上を図り、減少傾向にある利用者の増加につなげたいとしている。導入を見込むICカードは、他の公共交通機関でも相互利用できる機能に、地域独自のサービスが付いた「地域連携型」の交通系ICカードとなる予定。</p>
(2)	<p>親子で秋のスイーツづくり体験 ～「八戸いちご」身近に感じて～</p> <p>子どもに「八戸いちご」を身近に感じてもらおうと、八戸市は9月26日、「はっち」で「Let's eat 八戸いちご 秋の親子スイーツづくり体験会」を開いた。講師は同市の洋菓子店「リーベシムラ」の店主志村一雄さん、悟史さん親子と、同市に洋菓子店3店舗を構える「アルパジョン」社長の松坂和治さんで、デモンストレーションとして、小林眞市長が講師の助言を受けながらケーキ作り。クリームを均一に塗れなくても、細かく砕いたクッキーをまぶすと隠せることや、食欲が増すように、あえてイチゴのへたを残すという技を伝授した。親子8組が3段デコレーションケーキ作りに挑戦し、会場は子どもの笑顔とイチゴの甘い香りにあふれた。</p>

【産業】

記事	概要
(3)	<p>VISITはちのへ「リモートトリップ」開催 ～オンラインの旅で八戸の名所と食を体験～</p> <p>八戸圏域版DMO（観光地域づくり推進法人）「VISIT（ビジット）はちのへ」は9月12日、日本航空との連携事業で「リモートトリップ」を開催した。参加者には事前に、サバ缶や地酒、りんごジュースなどを詰め合わせた地場産品セットのほか、日航が機内のドリンクサービスで使用する紙コップや旅のしおりなどが届けられ、オンラインで東京－三沢のフライトを仮想体験し、リモート形式で八戸市内の観光スポットを巡った。リモートトリップは仮想体験でも臨場感のある旅を提供するのが特長で、VISITはちのへは八戸圏域の知名度アップを図り、特産品の販売促進にもつなげたいとしている。</p>
(4)	<p>認知度向上へ「南部の堅豆腐プロジェクト」展開</p> <p>北奥羽地方に古くから伝わる「堅い豆腐」を残そうと、同地方の豆腐店や百貨店などが「南部の堅豆腐プロジェクト」を展開している。堅い豆腐は、一般に流通する木綿や絹ごしに比べて大豆の使用量が多く、固める時間が長いため、豆の風味が感じられ、植物性タンパク質が豊富に含まれる。かつては正月などの晴れの日に煮しめや田楽などにして食べられていたというが、大量生産できる大手メーカーの台頭や軟らかい豆腐を求めるニーズの変化もあって、需要は減少した。プロジェクトでは「南部の堅豆腐」と銘打った統一ロゴを作成し、豆腐店同士が連携してブランド化を推進。消費者に気軽に試してもらえるように堅い豆腐を練り込んださつま揚げを開発し試験販売を始めた。今後はスイーツや総菜などを順次開発する予定で、若者を中心に堅い豆腐の認知度向上を目指す。</p>

(5)	<p>青銀新店舗「八戸支店兼三日町支店」オープン</p> <p>青森銀行は9月23日、八戸市堀端町に新店舗となる八戸支店兼三日町支店をオープンさせた。市中心街の三日町支店を「支店内支店」方式で八戸支店に統合。市が進める新美術館整備事業に伴い、1969年に建設された旧八戸支店（同市番町）を移転新築した。店舗内には市の情報提供コーナーのほか、美術作品などの展示スペース、デジタル技術を活用した金融やアートを体感できる「IT体験コーナー」を設けた。新美術館を軸とした再開発計画に参画し、中心街のにぎわい創出を図っている。</p>
(6)	<p>八戸ワイナリー 新作ワイン4種発売</p> <p>八戸ワイナリーは10月1日、青森県南地方で収穫した果実を使用した新作の赤ワインとアップルワイン各2種を発売した。赤ワインは、八戸市南郷産ブドウ100%の八戸ワイン「マスカット・ベリーA」（フレッシュでフルーティーな味わいが特長、税抜き1600円）と、南部町産ブドウを使用した「キャンベル・アーリー」（イチゴやリンゴを思わせる香りとシャープな酸味が持ち味、税抜き1800円）。アップルワインは、フランス語で「雪のリンゴ」を意味する「ポム・ド・ネージュ」シリーズ2種（発泡タイプと発泡なしのタイプで各税抜き2600円）で、原料のふじやジョナゴールドなど5種のリンゴを冷凍濃縮し、甘味と風味を引き出した。八戸市の直営ショップ「ヴァンタス」で全種類を販売し、赤ワインは市内スーパーなどでも取り扱う。</p>
(7)	<p>八戸線「リゾートうみねこ」 惜別のラストラン</p> <p>東日本大震災直後の2011年4月から運行され、車両老朽化のため3月に定期運行を終えたJR八戸線の「リゾートうみねこ」は9月27日、八戸駅と三陸鉄道リアス線の盛駅を往復する団体臨時列車「ありがとうリゾートうみねこ」として運行を終えた。6月に予定されていた旅行商品としての運行がラストランとなるはずだったが、新型コロナ感染拡大で中止となり、車両は八戸運輸区でいつになるかわからない出番を待っていた。終着の八戸駅には100人を超える鉄道ファンらが集まり、最後の雄姿を目に焼き付けた。</p>
(8)	<p>八戸市中心街「はちのへほコテン」 コロナ禍 今年初開催</p> <p>八戸市中心街が歩行者天国になるイベント「はちのへほコテン」が9月27日、十三日町から三日町にかけての通りとヤグラ横町で開かれた。例年は5月から10月までの最終日曜日に開いているが、新型コロナウイルスの影響で中止を余儀なくされ、同日が今年初めての開催。沿道には飲食店や各種団体など約30団体がブースを設置し、路上ではライブや大道芸パフォーマンスなど多彩な催しが行われ、大勢の市民でにぎわいを見せた。</p>

【地域】

記事	概要
(9)	<p>産業教育意見・体験発表会東北大会 八戸水産高の室谷さんが最優秀賞</p> <p>全国の水産・海洋系の高校生を対象とした本年度の産業教育意見・体験発表会の東北大会で、青森県立八戸水産高海洋生産科3年の室谷愛姫（あおね）さんが最優秀賞に輝いた。室谷さんは今年1～3月、実習船「青森丸」に乗船して米国ハワイ沖で操業した航海実習をテーマに発表。実習を通じて体得した強い気持ち、支えてくれる家族や仲間の大切さについて、身ぶりを交えて豊かに表現し、高い評価を得た。例年は開催校に出場者が集まり、壇上で発表する形式だが、今回は新型コロナウイルスの影響を考慮し、DVD収録による映像で審査された。</p>

(10)	<p>短歌界新人の登竜門「短歌研究新人賞」 谷地村さん（八高3年）入賞あと一歩</p> <p>青森県立八戸高3年の谷地村昂さんが、短歌界の新人の登竜門である第63回短歌研究新人賞（短歌研究社主催）で最終選考に残り、短歌総合誌「短歌研究9月号」に作品が掲載されている。今回は全国から595編の応募があり、最終選考作品24編の中から、新人賞、次席2編、候補作3編が選ばれた。受賞は逃したものの、高校生で最終選考に残るのは珍しく、今回最終選考作品の中では最年少となった。</p>
(11)	<p>日本グラフィックデザイナー協会表彰 西川さん（八戸出身）新人賞受賞</p> <p>若手グラフィックデザイナーの登竜門とされる今年の日本グラフィックデザイナー協会（JAGDA）新人賞に、東京都世田谷区のデザイン事務所「10（テン）」のデザイナー西川友美さん（八戸市出身）が輝いた。日本を代表するクリエイターの佐藤可土和さんらも過去に受賞しており、今年は37人の選考対象から西川さんら3人が獲得した。新人賞展が東京・銀座の「クリエイションギャラリーG8」で10月15日まで開催されている。入場無料だが事前予約が必要。</p>
(12)	<p>キリギリス・バス運行 ～バスの中で秋の風情満喫～</p> <p>南部バスを運行する岩手県北自動車南部支社（八戸市）は、市内の路線バス「岬台団地線」の2両にキリギリス1匹ずつを乗せ、乗客に音色を楽しんでもらう「キリギリス・バス」を運行した。2007年から毎年9月に行っている恒例イベントで、八戸市の「すず虫とキリギリスを愛する会」が協力している。9月8日の市内は残暑が厳しかったが、冷房の効いた車内で「ギーギー」という音色が響くたび、乗客が耳を澄ませ、涼やかな秋を感じていた。キリギリス・バスは9月下旬まで運行された。</p>
(13)	<p>ウインズスコア（東京）吹奏楽部応援企画 根城中にオリジナル曲プレゼント</p> <p>八戸市立根城中吹奏楽部に、楽譜の出版・販売を手掛けるウインズスコア（東京）から、全国の中学校で唯一、同校のためのオリジナルファンファーレが贈られた。新型コロナウイルス感染拡大に伴い、演奏の機会や場所を失った全国の中学・高校の吹奏楽部に対して、同社が展開する応援企画の一環。募集を見た同部顧問の教諭が応募し、同校が見事当選した。当選通知から約2カ月後、ゆったりとしたテンポながらシンフォニックで荘厳なイメージのする、行事の開幕にふさわしい曲調のオリジナルファンファーレの楽譜が届けられた。楽譜が届いてから急ピッチで練習を重ね、8月30日の体育祭の開会式で全校生徒や保護者らに初披露された。</p>
(14)	<p>レア物 "ピンクのキリギリス" 八戸で園児が発見</p> <p>八戸市十日市の「白鳥クラブテニスコート」付近で9月22日、全身がピンク色の昆虫「クビキリギリス」が発見された。発見したのは同市大久保の岡豊馬（とうま）ちゃん（3）。昆虫好きの豊馬ちゃんがバッタを追い掛けている最中に、木の葉っぱの上にいるのを見つけ、網で捕まえたという。クビキリギリスはキリギリスの仲間で、青森県内など日本各地に生息するが、ピンク色は目立つため天敵に襲われやすく、生き残るのはごくわずか。通常は緑か褐色だが、約千分の1の割合でピンクや赤色になるというレア物。</p>

(15)	<p>陸奥湊駅前の活性化へ オリジナルメニューで「陸奥湊キッチン」開催</p> <p>八戸市湊町のJR陸奥湊駅周辺の地区住民らで組織する「陸奥湊駅通り地区まちづくり協議会」は、改修計画が立ち上がった市営魚菜小売市場や駅前地区の活性化に向けた取り組みを展開している。9月21日には同市場で「陸奥湊キッチン」を初開催。魚菜小売市場で販売されている海産物などを使い、市内の料理人が一日限定でオリジナルメニューを提供した。陸奥湊キッチンは、来年3月まで毎月1回開催する予定で、「市民の台所」として親しまれ、観光拠点でもある陸奥湊エリアの新たな魅力を創出する。</p>
(16)	<p>八戸水産高生が「マリンマイスター」に認定</p> <p>全国水産高校長協会が優秀な生徒を表彰する「マリンマイスター」に、青森県立八戸水産高の8人が新たに「シルバー」として認定された。「マリンマイスター」は同協会が資格試験や検定、各種大会の成績をポイント化して評価する仕組みで、プラチナ（60点以上）ゴールド（59～45点）シルバー（44～30点）の3段階がある。新型コロナウイルスの影響により、取得に必要な活動が制限される中、生徒たちは学業の傍ら、就職や進学に向けて必要な資格を着実に積み上げ、8月に申請した。</p>
(17)	<p>南極観測船砕氷艦「しらせ」 3年ぶり八戸寄港</p> <p>海上自衛隊の南極観測船砕氷艦「しらせ」が9月27日、八戸港に3年ぶりに寄港した。「しらせ」は11月からの観測を前に訓練を兼ねて全国を回り、寄港地で内部を公開している。この日は入港歓迎式典が開かれ、小林眞市長が「八戸の山海の幸で英気を養い、次の航海に備えてほしい」と歓迎。会場では、申し込んだ市民らが艦内の設備を見学したり、南極の氷に触れたりして艦艇への理解を深めた。</p>

【文化・スポーツ】

記事	概要
(18)	<p>アイスホッケー全日本選手権 八戸市で12月開催へ</p> <p>12月に開かれる第88回アイスホッケー全日本選手権が八戸市で開催されることが9月2日、事実上決定した。青森県アイスホッケー連盟が同日、市内で理事会を開き、全会一致で受け入れを承認した。同選手権は近年、東北フリーブレイズなど国内のプロチームのほか、関東や関西の大学リーグの上位チームが参加するハイレベルな大会だが、今年は新型コロナウイルスの影響で、アジアリーグ加盟の国内5チームのみの参加で開催する。県連盟は今後、日本アイスホッケー連盟に受諾書を提出し、日本連盟が正式に発表する。県内開催は、2012年以来8年ぶり6度目となる。</p>
(19)	<p>悪疫退散 願い込め 八戸駅に三社大祭の山車展示</p> <p>八戸三社大祭の山車組で組織する「はちのへ山車振興会」は9月13日から、八戸駅2階の東西自由通路に、昭和30～40年代の作風を再現した伝統山車1台を展示している。展示している山車は、マチニワで開かれた振興会主催のイベント（7月31日～8月16日）に登場した3台のうちの1台で、籠（おがみ）神社の附祭組が新型コロナウイルス終息への願いを込め、「悪疫退散『鍾馭（しょうぎ）』」の題名で制作したもの。展示期間は来年1月末までの予定。</p>